

毒は毒をもって

はりまやの出店・第一号の「あびこ店」は、兄たちの了解を得て、私が建設から始まり、その経営の全権を握った。

私は学生時代にパチンコのセミプロだった。

しかし、それは客側のことであり、パチンコ店の経営や営業、釘の調整のことになると知識も技術もない。スタッフも全員が素人の集まりである。

そこで、パチンコの設備を購入した専門店に頼んで、パチンコ業に経験のある人を一人紹介してもらった。

このときの紹介者の一言にも、いささか驚いたものだ。

紹介者いわく、「紹介はするが、この業界では人を紹介するだけで、人物にまで責任を持たないのが慣例だよ」ということであった。

「ちょっと……？」という思いも無きにしも非ずであったが、「溺れる者、藁をも掴む」の譬（たと）えがある。

「それでもよいから」ということで紹介してもらった。

この「彼」は、パチンコ店での経験が相当に豊富で、営業にも精通し、釘の調整も出来るという人物であった。

われわれの中では、唯一の「パチンコ店経営の経験者」である。

いろいろと学ぶことも多いだけに、大切な人材として、言われるままの給料を払い、社宅も提供して『三顧の礼』を尽くして、「彼」を迎えた。

当然、店の練上げ以後、「彼」はマネージャーという立場で設備関係の業者との交渉や「店」の営業・運営などのすべてを取り仕切った。

もちろん、経営そのものについては私が、「計数を厳重に管理」することで、その全容の掌握を厳格に行っていた。

出て来た数字については、経営という面から私が注文をつけたり、アドバイスをしたりはしていたのだが……。